備えあれば安心

大規模地震を想定した県警の総合訓練が、26日早朝、県警本部や酒田、鶴岡両署で行われた。約千人が参加し、迅速な招集や津波への警戒、救助など、有事への対応を確認した。

震度6強 救助急げ

県警本部 酒田、鶴岡両署と訓練

午前6時ごろ、本県沖を震源とする地震が発生し、庄内地方で震度6強を観測した―との想定で訓練が始まった。県警本部では、非常招集された警察官らが続々と登庁した。損壊した建物からの救助を想定し、機動隊員がはしごとロープを使って庁舎から要救助者役を助け出した。緊急輸送道路を走行するための標章交付や、庄内沿岸部の映像の送受信についても確認した。

酒田署（増川高広署長）では津波発生に備えた住民の避難誘導を訓練した。署員が幹線道路沿い15カ所に出動し、救命胴衣を着用して人や車が沿岸部に近づかないよう導く手順を確かめた。鶴岡署（西塚隆一署長）でも緊急招集により署員が次々と駆け付け、信号の復旧方法や備品を点検した。

本部の須貝一男災害対策官は「酒田、鶴岡両署と連携し、迅速に情報伝達できた。災害はいつ起こるか分からず、県全体で意識を高めたい」と話した。

大地震を想定し、建物からの救助法などを確認した＝県警本部

大気汚染想定し情報伝達を訓練

県から市町村に

健康被害が懸念される「光化学オキシダント」などによる大気汚染の発生に備え、県は26日、情報伝達訓練を行い、緊急時の対応を再確認した。

大気汚染物質が県内全域で高濃度化したと想定して行った。県環境科学研究センター（村山市）からの情報を基に、各地の測定局を点検し、機器に異常がないことを確認。県は注意報を発令し、市町村など関係各所にファクスで伝え、注意喚起を求めた。

山形市の県保健福祉センター敷地内では県村山総合支庁の担当者が機器の測定状況を目視で確かめた。中核市移行後に測定業務を担う山形市の担当者も加わり、初動対応を確認した。

光化学オキシダントは排ガス中の窒素酸化物が太陽光に反応して生じる。県は1971（昭和46）年度から測定し、2009年4月に一度、西置賜地方を対象に注意報を発令した。県水大気環境課の担当者は「5月ごろは県内でも汚染物質の濃度が高まる。目や喉などに異常を感じたら洗い流すなど注意してほしい」としている。

測定機を確認する県村山総合支庁と山形市の担当者＝山形市・県保健福祉センター敷地内

消火用放水銃を設置

尾花沢 銀山温泉

尾花沢市は消防車両が入れない銀山温泉を火災から守ろうと、温泉街に消火用の放水銃5基を設置した。26日、現地で安全祈願祭とお披露目を行い、放水銃2基から放たれた水柱が高々と上がった。

銀山温泉は銀山川沿いの約300㍍区間に木造旅館などが密接して立ち並ぶ上、通路が狭いため、火災時の対応に不安があった。過去には1953（昭和28）年12月に火災が起きている。市は昨年度事業として放水銃の設置を計画し、雪解けを待って完成披露を行った。総事業費は793万円。

放水銃は従来あった消火栓を付け替え、高さは約1・2㍍。銀山川左岸に2基、右岸に3基を備え、それぞれ固定された場所からほぼ全方位に放水できる。有効距離は18㍍ほど。ハンドル操作により1人でも扱え、煙や熱から避難者を守る噴霧放水もできる。

この日は関係者約60人が出席。祈願祭の後、地元消防団やおかみが放水すると、観光客らの目を引いていた。銀山温泉組合長の木戸裕さん（41）は「初期消火には大変役に立つと思う」と話していた。

HPに動画 電子版はダブルタップ

火災に備えて放水銃が設置された＝尾花沢市・銀山温泉

「鮎釣り甲子園」開催へ

最上小国川 本年度 高校生に文化伝える

最上町と舟形町を流れる最上小国川で本年度、全国の高校生らを対象にした「鮎釣り甲子園大会（仮称）」が初開催されることが26日、決まった。県内を中心に多くの高校生に参加を呼び掛け、地域に伝わるアユ釣り文化の伝承のほか、郷土愛の育成にもつなげていく。

舟形町中央公民館で同日開かれた最上小国川清流未来振興機構（悪七幸喜本部長）代表者会議で18年度事業案の一つとして示され、満場一致で了承された。

鮎釣り甲子園大会の目的として、最上小国川の素晴らしさを内外に広くアピールし、流域の活性化に結び付けるとともにアユ釣り文化の継承を図る―とした。同機構は開催時期や場所など大会の詳細について、関係者と協議の上で早急に決定するとしている。

提言者の森富広舟形町長は「最上小国川のほとりに暮らしながら、アユ釣りの経験がない子どもたちが多くなった。地域の高校生数人が参加してくれただけでも意義あることだと思う」とした上で、現在建設中の最上小国川流水型ダムに言及し、「ダム建設が水質とアユの生育に影響しないことを示したい」と述べた。

同町のシンボルのアユは、「松原鮎」と呼ばれ、形、香り、味が良く、明治天皇行幸の際に献上された記録も残っている。最上小国川は生活排水が入り込まず、川魚の宝庫とされる。東北地方でも有数の「アユが釣れる川」として知られ、大手釣り具メーカーが毎年、大会を開いている。同機構の18年度事業計画としてほかに、写真コンテスト実施、釣りマップ発行などの継続を決めた。

架空請求、910万円被害

ストップ!! うそ電話詐欺

山形の60代女性 追加200万は返送

県警捜査2課は26日、山形市内の60代女性が架空請求詐欺で現金910万円をだまし取られたと発表した。女性はさらに200万円を送金していたが、犯人側に渡る前に、警察からの連絡で詐欺に気付き、被害の拡大を防がれた。

同課によると、先月27日ごろ、女性方に「総合消費料金に関する訴訟最終告知のお知らせ」というはがきが届いた。民事訴訟を起こされ、連絡がない場合、給料を差し押さえるなどと書かれていたため、記載の東京都内の連絡先に電話した。「国民訴訟通達センター」の担当者や弁護士を名乗る男らから、弁護士費用や弁済供託金などの名目で、現金を要求された。

女性は今月手の指示通りコンビニから、支払い、宅配便などに計900万円を宅配便した。その後、

効率的な新聞の読み方を学んだ出前講座＝山形市・NTT東日本山形支店薬師町ビル

地域の課題 敏感に

NTT山形支店で出前講座

ビジネスに新聞を NIB

山形新聞が取り組む「学校に新聞を」の企業版「NIB（ビジネスに新聞を）」の出前講座が26日、NTT東日本山形支店（両川英樹支店長）の新入社員19人を対象に山形市の同支店薬師町ビルで開かれた。山形新聞の橘拓報道部長が紙面構成や効率的な読み方を紹介

◇NIB講座の問い合わせ・申し込み

NIB出前講座の問い合わせ、申し込みは山形

無断転載写真を削除

34万件

報道7社 LINEに要請、合意

投稿サイト

まとめ◎」に

全国紙など報

そのグループ

上にある写真

件が無断転載

とが分かり、

ていた7社と

を運営してい

（ライン）な

真の削除と、

策を取ること

発表した。

まとめサイ

害の温床にな

指摘がある。

致して対応を

異例だ。7社

新聞社、産経

経済新聞社、

読売新聞社、

7社は20

写真が無断掲

として、調査

した。

橋部長は「

の内容を凝縮

記事の一段落

事なことが書

と新聞を読む

を伝えた。メ

シーについて

ざまなメディ

し、正しい情